



心を開いて相手の心に近づく

心を開いて相手の心に近づくとはあいさつのことです。
あいさつ（挨拶）の「あい」には、心を開くという意味、
「さつ」には、その心に近づくという意味があります。
要するに、あいさつとは、自分の心を開くことで、相手の
心を開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為のことです。



みんなは「あいさつ」が自然にできていますか？挨拶は「あなたの存在を見つけました。よろしくお願いします」という人間関係をスタートさせるためのコミュニケーションの第一歩といえます。相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めてするのが挨拶の基本です。また、挨拶のしかたによって、常に自分や学校、所属クラブが評価されていることを忘れてはいけません。そこで**あいさつの4か条**を以下に示します。

『**あいさつの4ヶ条**』は、**頭文字が「あ」「い」「さ」「つ」**で始まります。

「あ」：明るく、温かく

あいさつの「あ」は、あいさつをする上での大前提、大原則と言っても過言ではないでしょう。

「い」：いつでも、誰にでも

わたしたちはつい、知っている人だけにあいさつをしがちですが、思いがけないつながりを持つためにも、いつでも、誰にでも、積極的にあいさつをしておきたいものです。

「さ」：先に、すすんで

あいさつは人より先に行くことが大切とされています。先にあいさつをするということは、相手よりも早く好意を示すことです。

「つ」：続けて、次の言葉を

あいさつの「つ」には二つの意味があります。一つは、「挨拶という行為を続ける」ということです。あいさつは一度きりではなく、続けることが大切です。もう一つは、「あいさつに次の言葉を加える」です。「次の言葉」とは、相手との会話を続けるための言葉です。

「おはよう、今日は暑いね～」「こんにちは。あ、昨日はありがとう！」のように、あいさつの後にプラスαの言葉を続けることで、相手とのコミュニケーションがより活発になります。以上が、**あいさつの4ヶ条（「あ」「い」「さ」「つ」）**です。

さあみんなはどんなあいさつができていますか？